

九州支部だより

第 21 回九州支部主任者研修会・見学会 印象記

松下 祐司

毎年場所を移しながら実施している九州支部主任者研修会・見学会は、長崎大学坂本キャンパスで、2015年12月11日に開催された。あの有名な曲のように、雨がぱらつく天気であった。

さて今回は、次世代の主任者を育成するためというテーマを基にパネル討論が行われた。パネラー以外にも研修会参加者へ YES, NO 形式ではあるが回答を求めるといった初めての試みである（写真1）。原子力規制庁放射線規制室からも参加いただき、どうなるものやらと思っていたが、忌憚のない意見を交わすことができたと感じる。この討論に対する個人的な感想をそのまま書こうとすると、NGワードが出てきそうなので、それはご勘弁いただきたい。

次世代の主任者の育成について、「どげんかせんといかん」という思いが十分に伝わった。毎回このようなことを行うのは難しいと思われるが、良い企画であった。テーマを変えてまた行うのも有用だと思う。

昨今は多数の施設で RI 利用者が減ってきている

という話をよく耳にするが、長崎大学において小動物 PET 実験、イメージングによって利用者を増やしている事例について講演があった。

その後に実際の施設を見学したが、RI 管理区域の中にバイオハザード実験室を設けていることから、RI とは相反する空調管理、面倒な廃液管理など、施設の管理を含め、管理者への負担が多いことが分かった。それでも利用者を増やそうという意気込みが、熱い講演からも感じ取れた。イメージング分野は、これからも継続して利用者が現れることと思う。

長崎大学にはサイクロトロンが無いことから、人用の ^{18}F -FDG をデリバリー購入しているそうだが、その費用もばかにならない。海外製カメラ本体も高額だし、破損し易そうな動物用ホルダー等の部品だけでなく、維持費も高額であるそうだ（写真2）。この点がネックで、やりたくてもやれない施設があると思われるが、将来 RI 利用者を増やすためにも、是非同様のケースにも予算の拡充を期待する。RI でしかできないことを広めていきたいと思う。



写真1 パネル討論の様子



写真2 見学会の様子



写真3 測定の様子



写真4 基調講演の様子

長崎大学は以前より緊急被ばく医療に関する分野で有名である。その施設のホールボディカウンターで内部被ばくを測定していただく機会を得た。

実は私自身、複数の原子力発電所や、原子力研究施設の管理区域に入域したことがあるので、バイオアッセイを含め、内部被ばくの測定をした経験が多数ある。ホールボディカウンターは複数のタイプがあり、違いは理解している。

長崎大学のものは、低バックグラウンドの遮蔽材を使った小部屋の中で、被検者がベッドに仰向けに寝て、その体を頭から足下まで検出器がゆっくり動きながら測定するものであった(写真3)。初めて経験するタイプであったが、被検者への圧迫感が少なく、また確実に全身を測定できることから、他の方式に比べ正確に測定できることが容易に想像できた。やはり測定にはどのようなことが必要であるかということを知り尽くした方が作った、上等な一品物であることが分かった。

ところで測定結果を評価するには体重を測る必要があるが、100 kg オーバーの体重が皆さんにばれて

しまった。ちなみに今はそれから少し絞って、僅かではあるが軽くなっている。写真も撮られたので、きっと薄くなった頭も映っていることと思い、少し恥ずかしい気がする。

研修会の内容とは関係ないが、九州支部は沖縄だけが遠く移動に時間を要し、また交通費用も多く掛かることから参加が難しいのが残念なところである。福岡以外だと沖縄からのアクセスが良くないためか、参加者はいなかった。パネル討論もあったので、できれば沖縄の管理者の生の声を聞いてみたかった。沖縄からも参加いただける何か良い方策がないのだろうか。

原子力規制庁放射線規制室からも基調講演を行っていただいたのはとてもありがたかった(写真4)。特にトピックスがなくても、伝達事項でも何でも良いので、規制室からの生の話を聞きたいと常々思っている。継続しての参加を是非ともお願いしたい。

最後に、入念に準備をしてくださった支部長をはじめ、支部委員の方々には本当に感謝いたします。

((株)日立製作所 ヘルスケアビジネスユニット)

主任者コーナーの編集は、放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

【広報専門委員】

池本祐志(委員長)、安中博之、大石晃嗣、片岡隆浩、廣田昌大、藤淵俊王、宮本昌明、吉田浩子